スポーツを伝える「情報番組」の役割

トップスポーツマネジメント研究領域
５０２２A３２４－１　恵　俊彰
研究指導教員：平田 竹男 教授

1.　はじめに

筆者が担当する情報番組ひるおびでは、スポーツに関する話題が取り上げられることが度々ある。これまでに、スポーツ番組のＪスポーツ（現 S☆１）の司会の経験もあるが、ひるおびと S☆１での伝え方に違いがあるように感じている。

テレビで取り上げられるオリンピック選手の特徴には試合後のインタビューから得られる「言葉」やその選手の「物語性」や「ストーリー性」が影響する（大橋,2012)という指摘のように、成績だけが世間から注目される要素ではない。バラエティー番組でのスポーツ選手の取り上げ方や映像技術、スポーツメディア研究の動向についての先行研究はあるが、「スポーツ番組」と「情報番組」のスポーツの取り上げられ方の違いについては十分な情報がない。「情報番組」はどのような「スポーツ」を選び、どのように伝えているのか。「情報番組」には「スポーツ番組」がスポーツを伝えることとは違う役割があると思われる。

そこで本研究は、スポーツを伝える「情報番組」の役割を明らかにすることを目的とする。

2.　方法

本研究の対象は、情報番組「ひるおび」、スポーツ番組を「S☆１」、「news23 スポーツコーナー」である。

1)　ひるおびで放送されたスポーツの分析

2010 年 1 月 1 日から 2022 年 12 月 31 日までの 13 年間に「ひるおび」で取り上げられたスポーツの話題を対象に、放送したスポーツの種類、内容、放送回数を調査した。

2)　スポーツに関するテレビ番組制作者への調査

TBS でスポーツに関する番組の制作にあたっている 817 人（情報番組、スポーツ番組、報道番組制作者）を対象に属性、取り上げた話題で印象に残っているもの、その理由、情報番組に伝えてほしいスポーツの話題などの質問で構成した「各番組のスポーツの取り上げ方に対するアンケート調査」を Google フォームで実施した。回収したデータは単純集計し、回答者の年齢・性別・所属などで比較した。

3)　番組間の比較（ケーススタディ）

アンケートで上位になった個別話題を対象に、３つの番組のそれぞれの放送日、放送時間、放映権の有無を比較し、特徴的な３つの話題ついてはひるおびでの放送内容、番組構成について検証した。

4)　取材対象者（元アスリート・現指導者）へのアンケート調査

情報番組・報道番組の取材・出演経験がある 4 名に対して、番組間での違いや伝えてほしいことなどについて聞いてみた。

3.　結果

1)　ひるおびでのスポーツ放送回数と内容

ひるおびは対象期間中 3335 回放送があり、862 回（25.8%）スポーツを取り上げていた（表 1）。放送された内容はオリンピックや男女サッカーW杯、各競技の世界選手権などの国際大会での好成績や松山英樹選手のマスターズ制覇や錦織圭選手全米 2 位、大谷翔平選手の MVP 獲得といった歴史的偉業、さらには日馬富士暴行事件、大坂なおみ選手が人種差別撤廃を訴えるために被害者の名前入りのマスクを着けて望んだ全米オープンテニスなど事件性・社会性がある話題を伝えていた。

2)　アンケート調査

285 人から回答があり、回答者の 93.3%がスポーツ経験者で、7 割近くが都道府県大会以上のレベルで活躍していた。印象に残った話題上位５つは、大谷翔平、オリンピック、パラリンピック、サッカーW 杯、ラグビーW 杯、村上宗隆であった。取り上げた理由は 3 番組とも好成績・歴史的偉業が一番多かった。スポーツ番組、報道番組の制作者は「情報番組で伝えるべき内容」を人物・ドラマ（人柄）（39.7%）、大記録・歴史的偉業（19.5%）、使える・ためになる情報（10.3%）、変化する世の中・影響（8%）であった。（図 1）

表 1　情報番組　ひるおびの放送回数とスポーツの放送回数・内容

年	年間放送回数	スポーツ放送回数(%)		主な内容
2010	256	49	(19.1)	バンクーバー五輪、サッカーW 杯大会、宮里藍米ツアー優勝、世界バレー、フィギアスケートなど
2011	265	71	(26.8)	サッカーなでしこ女子 W 杯ドイツ大会優勝、フィギア浅田真央選手、世界陸上、体操選手権など
2012	262	80	(30.5)	ロンドン五輪、フィギア浅田真央選手、イチロー選手移籍、松井秀喜選手引退、錦織圭選手（全豪ベスト 8）、五輪マラソン選考、高梨沙羅選手 W 杯、
2013	256	71	(27.7)	野球（WBC）、田中将大選手（楽天優勝）、上原浩治選手（ワードシリーズ優勝）、陸上世界選手権、フィギア浅田真央選手、羽生結弦選手
2014	256	80	(31.3)	ソチ五輪、錦織圭選手（全米 準優勝、楽天オープン優勝）、サッカーW 杯
2015	257	66	(25.7)	錦織圭選手（全豪 8 位、全仏 8 位など）、ラグビーW 杯（ブライトンの軌跡）、サッカーなでしこ W 杯など
2016	259	50	(19.3)	リオデジャネイロ五輪、相撲（琴奨菊、白鵬、豪栄道の優勝、千代の富士の死去）など
2017	255	63	(24.7)	相撲（稀勢の里優勝・横綱昇進、日馬富士事件、貴乃花親方と相撲協会との対立）、野球 WBC、フィギア世界選手権、松山英樹選手とトランプ大統領のゴルフなど
2018	256	123	(48.0)	平昌五輪、大谷翔平選手（MLB デビュー・新人王獲得）、日大アメフトタックル問題、サッカーW 杯、大坂なおみ選手全米優勝など
2019	256	66	(25.8)	大坂なおみ選手（世界ランク 1 位）、錦織圭選手（全仏ベスト 8，全英ベスト 8）、陸上サニブラウン選手 9 秒台、稀勢の里引退、ラグビーW 杯日本大会など
2020	255	8	(3.1)	相撲（幕尻徳勝龍優勝）、2020 オリンピック・パラリンピック延期、大坂なおみ選手（全米優勝、マスクにメッセージを出してのアピール）
2021	253	57	(22.5)	東京五輪、松山英樹選手マスターズ制覇、大谷翔平選手（オールスター出場、MVP 獲得）など
2022	249	78	(31.3)	北京五輪、大谷翔平選手（二桁勝利、二桁本塁打）、佐々木朗希選手完全試合、村上宗隆選手本塁打日本記録更新、サッカーW 杯、箱根駅伝青山学院大学優勝
合計	3335	862(25.8)		

表 2　印象的な話題の各番組での放送時時間（分）と映像使用制限

放送日・話題	news23	S☆1	ひるおび	映像使用制限	備考
2015/9/21　ブライトンの奇跡	1	2	50	あり	S☆1 の放送 2015 9/20
2021/4/12　松山英樹マスターズ初制覇	0	8	67	無	news23 ニュース枠で 15 分放送
2021/11/19　大谷翔平 MVP	0	5	72	無	news23 ニュース枠で 18 分放送
2022/1/4　箱根駅伝青学優勝	0	0	87	あり	-
2022/4/11　佐々木朗希完全試合	0	14	59	無	news23 ニュース枠で 5 分放送
2022/12/2　日本代表対スペイン代表	0	15	96	あり	news23 ニュース枠で 17 分放送

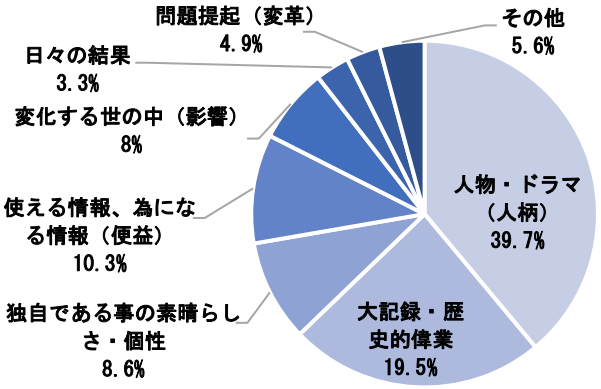

図 1　情報番組が伝えるべき内容

3)　番組間の比較（表２）

6 つの事例はいずれも情報番組の放送時間が最長で、情報番組では映像使用に制限のあるサッカー・ラグビーの W 杯や青学の箱根駅伝優勝も、ゲストに専門家や選手・監督をよび、フリップを用いて詳しいルールやフォーメーションの説明をするなどの工夫をしながら放送していた。

4)　取材対象者（元アスリート・現指導者の意見）

対象者の全員に取材された経験があり、「情報番組」と「スポーツ番組」の違いを認識していた。そして取材対象者が「情報番組」に期待していたのは、「結果よりプロセス」であり、競技の「奥深さ」、「専門性」、つまりスポーツ競技の普及であった。

4.　考察

1)　情報番組がスポーツを取り上げる基準と内容

情報番組がスポーツを取り上げる基準は国際大会での結果（成績）が優れていること、成績が歴史的偉業であること、そして事件性、社会性のある話題であった。たとえばオリンピック（862 回中 175 回、最多）では、メダル獲得が一つの基準となり、サッカー(127 回)の場合は W 杯。男子の W 杯は予選から取り上げるが、女子は本線出場かつ優勝した 2011 年、準優勝の 2015 年は取り上げ、他の大会は放送がなかった。また個人競技で特徴的なのはテニス（87 回）で、グランドスラムでベスト８以上の錦織圭選手と大坂なおみ選手の 2 人だけを取り上げていた。フィギアスケートはオリンピック、GP シリーズ、全日本選手権、四大陸選手権出場のいずれも取り上げられていて、野球の場合はメジャーリーグが主で、日本のプロ野球の場合は完全試合、三冠王といった偉業達成を取りあげていた。

情報番組では、国際大会での優勝・金メダルなどや国内での偉業達成の場面に加えて①本人やその家族を取材して「人間性」を伝える。②ライバルとの関係を取材し「成長の過程」を伝える。③支えてきたスタッフを取材して、選手を支える「環境」を伝えるの①～③いずれかのパターンで多くの人に支えられてメダルが獲得できた、また偉業につながったということを伝えていた。

2)　「情報番組」と「スポーツ・報道番組」のスポーツの伝え方の違い

スポーツ・報道番組では試合結果を伝えることに比重が置かれていて、情報番組は日々の試合結果ではなく突出した記録や出来事が生じた際に、如何にそれが影響力の大きな出来事であるのかを、「専門家」や「街の人」といった選手本人ではない第三者の声を拾い上げること、特に報道番組とは異なる点は「街の人」の反応を伝えることで多くの人に記録の偉大さを広げ、喜びや感動を伝えていたと考えられた。

3)　13 年間を通しての情報番組の変化

13 年間の変化をみると、17 日連続放送した 2022W杯の放送時間が象徴するように、映像使用に制限がある場合でも情報番組は競技の専門的な内容をスポーツ番組に劣らない専門家を交えて、さらに独自のフリップを作って詳しく伝えるようになっていた。さらに映像使用に制限のある方が、放送時間に柔軟性がある情報番組は一定時間放送できるという強みを持っていることが分かった。

そして情報番組が伝えている選手の人柄や練習方法、チームの戦略はスポーツ局や報道局の記者、制作者がそれぞれの結果に至る過程で選手を中心に関係者から取材したものであることも確認できた。番組制作のなかでも最も選手の情報を有するスポーツ番組の取材内容や素材を共有してもらえることで、情報番組が時間をかけてスポーツを専門的に伝えることを可能にしていた。

5.　結論

情報番組、スポーツ・報道番組ではスポーツの伝え方に違いがあり、情報番組は試合結果を伝えるだけでなく、結果にまつわる選手や指導者、家族、裏方スタッフ等のサイドストーリーを伝えていくことが重要な役割であった。これは、スポーツ番組や報道番組の制作者からも、情報番組が取り上げるべきだと支持されていた。

また情報番組は長い時間をかけてひとつの話題を取り上げることが可能なことから、監督の指導法といった一般社会でも使える情報やスポーツ競技の問題点をより深くより多くの人に伝えることも役割の一つと言える。

さらにスポーツ番組が日々取材してきた素材を無駄せず情報番組が放送していた。つまり情報番組がスポーツ番組の受け皿になっているという側面があり、これも情報番組の大事な役割である。

そして今回明らかになった最大の役割はスポーツ番組が取材してきた素材も含めて、スポーツが持つ本来の面白さをスポーツファンではない人達に伝えることであった。これこそ取材対象者が情報番組に求めていた「スポーツ競技の普及」に繋がる大きな役割と言える。